

図書館通信

松山城南高校
図書・情報委員会
R元. 11
No5

☆特設コーナー ～修学旅行の学びを深めるために～

やっと読書の秋にふさわしい気候となってきました。10月27日から11月9日は「読書週間」です。よりいっそう本に親しみましょう。

☆ビブリオバトルin松山中央図書館

10月27日(日)、松山中央図書館で第6回ビブリオバトルが開催されました。美術同好会の活動として3年2組の國仲研一さんが出場しました。國仲さんの選んだ本は『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』伊藤公一朗(光文社新書)

「この本を読むことで、考え方が変化しました。今まで常識と思っていたことも本当にそうなのか一度立ち止まって考えるようになりました。書名だけを見ると難しそうに感じるかもしれませんが、基本的な考え方を示してくれるわかりやすい本なので、ぜひ読んでください」と紹介してくれました。他校の参加者が紹介した本も図書館に展示しています。



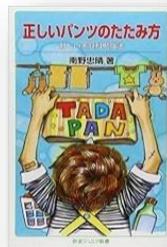
☆新着図書ピックアップ



映画『天気の子』気象監修の筆者が、雲の魅力を教えてください。



次世代SFアクション。先生方にもこの作品のファンが多いんです。あなたはエウレカ派? アネモネ派?



家庭科を勉強する意味とは?



漫画では語られなかった物語!



『野口英世の母シカ』 田中章義(白水社)
厚い信仰心を持ち、極貧の生活に耐えながら息子を世界的医学者に育て上げた女性、シカの物語。



『明治ガールズ 富岡製糸場で青春を』
藤井清美(KADOKAWA)
「わたし、富岡製糸場に参ろうと思います」明治、女性の自立などまだまだ考えられなかった時代に彼女たちの生き方は輝いていた。



『世界文化遺産 富岡製糸場と明治のニッポン』
熊谷充晃(wave出版)
「技術大国日本」が世界に評価された! 2015年に世界遺産に登録された富岡製糸場について詳しく学べる一冊。



『あん』 ドリアン助川(ポプラ社)
小さな町のどら焼き屋。徳江という高齢女性を作る「あん」がおいしいと評判になっていく。ハンセン病患者がどんな人生を強いられてきたのか。私たちは、知ることから始めなければならない。



『ハンセン病を生きて—きみたちに伝えたいこと』
伊波敏男(岩波書店)
十四歳からハンセン病療養所での治療を経て全快した筆者が、自らの体験を通してハンセン病問題とは何かを考えさせてくれる。



『台湾の若者を知りたい』 水野俊平(岩波ジュニア新書)
台湾の若者の学校生活、受験戦争、兵役、就活。東日本大震災の直後に200億円もの義援金を送ってくれた台湾とはどんな国なのか?

図書館通信では紹介しきれなかった本や旅行ガイド(雑誌の貸出はできません)も置いています。学ばずに訪れるのと学んでから訪れるのとでは、感動が何倍も違います。事前学習に活用してください!